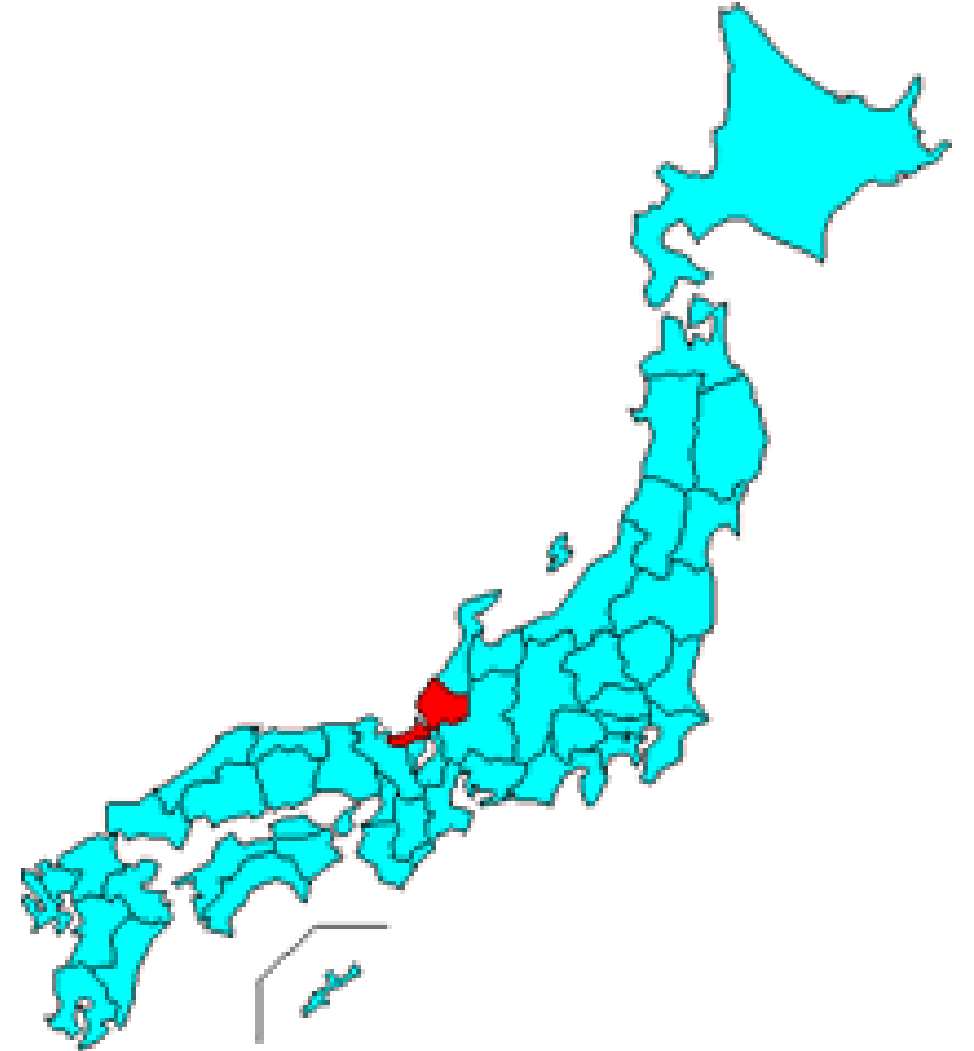


平谷こども発達クリニック での取り組み

言語聴覚士 山口 大輔

平谷こども発達クリニック



平谷美智夫院長が、福井県立小児療育センターを退職後、平成13年に開業

平谷クリニックでの 読みの障害・書きの障害への支援

医師

療育の指示
重複する障害
への投薬

心理

行動面への
フォロー

言語聴覚士 (ST)

読み書き評価を実施
→状態像の把握

↓
個々に合った
支援

スーパーバイズ
の先生

北里大学
石坂先生

金沢星稜大学
河野先生

星槎大学
伊藤先生

大阪医科大学
LDセンター
奥村先生

読み書き評価で実施する検査

読みの障害・書字の障害の 背景要因を探る検査

読み:

音韻操作課題
RAN課題

書き:

Reyの複雑図形
フロスティッグ視知覚発達検査
(低学年のみ)
WAVES
視機能のチェック

読みの検査

稲垣式音読検査(流暢性)
STRAW(正確性)
KABC- II

書字の検査

STRAW(正確性)
URAWSS(流暢性)
KABC- II

語彙・言語能力を みる検査

PVT-R
SCTAW
LCSA
KABC- II

STでの支援 低学年:

直接的な介入

特殊音節・助詞「は」「を」「へ」
語のまとめ読み
短文の読解
(なぞなぞ・算数文章題等)
漢字－複数の読みの理解
漢字のパーツの分解－統合



環境調整

家での働きかけの提案:

宿題での代読・語義の確認等、
養育者の手がかりの与え方
絵本・短い読み物の読み聞かせで、
ストーリー、書きことばの語彙に親しむ

養育者を通して、学校とのすりあわせ:
本人の苦手さに応じた、宿題の内容・
採点基準の調整

とめ・はらいは多めにみってもらう
板書の写字・漢字写字の量を少な目にetc.

STでの支援 中・高学年:

直接的な介入

熟語レベルで、意味(絵)－文字の
連合学習(サイトワード)
文脈からの意味・個々の漢字の読みの
手がかりより、熟語を推測
文章読解
(語義の確認・
段落ごとに要約しての話の流れの確認)
簡単な作文
(書くテーマに沿って、キーワードの書き出し
→順序立てて肉付け)
PC・タブレットでの入力(50音・ローマ字)



環境調整

家での働きかけの提案:
辞書・電子辞書での調べ方
タブレット等活用可能な場合、
読み上げ機能・漢字の字形の確認等、
自習への活用

養育者を通して、学校とのすりあわせ:
本人の苦手さに応じた、宿題の内容・
採点基準の調整

記述問題で、漢字を使用しなくてもOKに
してもらうetc.

ASDを重複する場合

対人疎通の弱さ

- 課題意図の汲み取りに時間がかかる・本人の思い込みで解こうとする
- 物語文での登場人物の心情の汲み取りが難しい
- 対人関係・気持ちのやりとりに関係する語彙が理解できていない

自身の障害特性への理解の促しの遅れ

想像力の弱さ

- 文章読解の弱さ
- 作文で、手助けなく一から書き起こすことが難しい
- 初めてすることに、イメージがつかず不安がる(→見通しをつける)

こだわり

- 誤りの修正を受け入れられない

ADHDを重複する場合

課題での集中時間が短い
学習へのモチベーションが低い
(→見通しを与える・トークン等の付加がより有効)

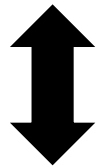
自分から見直しての修正の習慣が根付きにくい

複数の情報を判断の上、順序立てる・取捨選択することが苦手で、
一部の情報のみに飛びついて判断しがち
(→必要な情報を限定してあげる・考える順序を視覚化して示す)

ADHDと書字の関係性について

対象：クリニックを受診した学齢の発達障害児53名

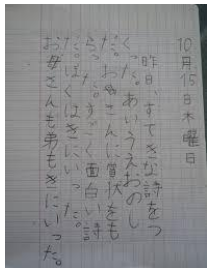
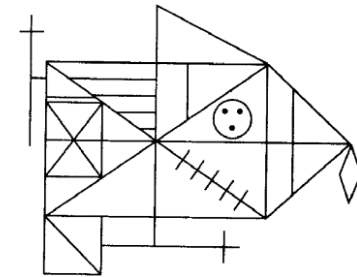
ADHD-Rating Scale不注意・多動衝動項目の
親・教師の点数の合計



Reyの複雑図形BQSS法の合成点数

(模写・直後再生・模写/直後再生の把持率・組織化)

書字の判読性(クリニックST4名で0~5の範囲で点数化した数値の平均)
の相関を求めた。



ADHDと書字の関係性について

結果

	模写	直後再生	模写/直後再生 の把持率	組織化	字形の判読性
ADHD-RS 不注意	.006 .963	-.166 .234	-.192 .169	-.349* .010	-.374** .006
ADHD-RS 多動衝動	.003 .984	-.210 .132	-.199 .152	-.269 .051	-.308* .025

** $p < .05$

* $p < .01$

字形の判読性 ⇔ ADHD-RS不注意・多動衝動の点数と軽度の相関

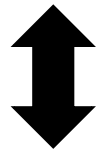
組織化 (図形全体をまとまりと捉えて描いているかの指標)

⇔ ADHD-RS不注意と軽度の相関

知的に境界域・言語に遅れがある場合

読み・書きへのフォローに加えて、
語彙、概念学習、文法面の学習等
本人が苦手な言語面も積み上げていくフォローを

中・高学年になると、特に漢字や、
一定の語彙理解が必要な文章読解で、より苦手さが顕著に
→通級、特別支援学級、民間の塾等で、基礎に戻っての学びなおしの必要性



逆に、知的に正常域、また、ディスレクシアの重症度が軽度の場合、
中・高学年で まとめ読み↑、語彙理解もよいため読解も一定OK
→読み・書きについての本人の負担がみえにくくなる

知能が読みの能力に与える影響について

対象：IQ70以上の発達性ディスレクシアの診断のついた小学生

低学年42名、中学年19名、高学年18名

読みの検査（稲垣式単音・有意味語・無意味語・単文・STRAW漢字）を
従属変数

WISC-IVまたはWISC-IIIの全IQを説明変数

→ステップワイズ法の単回帰分析を実施

（WISCの全IQが読みの各検査について有意に影響するかどうかを
調べた）

知能が読みの能力に与える影響について

結果

	稲垣式単音	稲垣式有意味語	稲垣式無意味語	稲垣式単文	STRAW漢字
低学年					
中学年		+		+	
高学年		+		+	+

+ : ステップワイズ法で全IQが説明変数として残ったもの

小学生で学年が上がると、
特にひらがなの有意味語の読みの流暢性、漢字の読みの正確性について、
知能が影響する可能性を示唆

知的障害のあるお子さんの読み・書き

健常児では、4歳台で読み書きのレディネスが育つとされる



知的障害のある小学生の読み書き能力を確認すると、
発達年齢が4歳に至っていなくても、読み書き可能となっているケースも多い

一方で、個々の認知能力の発達に相応な読み・書きの限界があり

例) 音韻処理の弱さ・単語レベルでの綴りの誤り・まとめ読みができない

視知覚の弱さ・似た字の見間違い・複雑な字形のかな・漢字は写字が不可能

会話応答・言語面の弱さ・文章レベルの読解・作文まで至らない

→読み・書きにこだわらない、本人の発達年齢に合った認知的な支援を
獲得した読み・書きの能力を、実生活に活かしていく支援を

知的障害を持つ子どもの読み・書き支援の例

Aくん 小3 特別支援学校に在籍

読み書きの習得が進まない、という主訴で、言語評価を実施

知能検査 田中ビネー 3歳前半の発達年齢

1歳級の「犬さがし」、2歳級の「トンネル作り」「絵の組み合わせ」を落とす

読字・書字に関する検査

ひらがな文字検査 5歳前半に相当

ひらがなの読み、単語レベルで語把握＋ 特殊音節の読み－

ひらがなの書字、字形が複雑なかなだと、線どうしの位置関係が崩れる

単語レベルのスペリング、文字数の多い単語では語中の音の書き落としあり

知的障害を持つ子どもの読み・書き支援の例

読み・書きに係る認知課題：

音韻認知課題 語頭音：絵の選択できず モーラ分解、ルール理解—
聴覚的記銘 数唱、3桁で不確実に

描線課題(S-S法検査より) 十字まで+ 四角描けず 2歳台レベル
追従性の追視を確認すると、縦・横とも視線はずれやすく、首がついてくる

質問—応答関係検査 全体で3歳後半に相当

非現前の質問(目の前にないことについての質問)、簡単な内容なら応答可能
理由説明、もし～への応答のような、因果関係の原因/結果への質問応答は困難

知的障害を持つ子どもの読み・書き支援の例

評価のまとめ:

読み書き能力(5歳前半) > 発達年齢・会話応答の相当年齢(3歳台) > 視知覚(2歳台?)の
プロフィール

支援: 母親を介して、学校の先生と情報交換

視知覚: マッチング・大小概念・位置の記憶・数概念・ぬりえ・簡単な点つなぎ
動物等、違いを表す特徴への注目、言語化(→語彙の概念を育てる)

会話応答: 先の展開の予測(系列絵・絵本で、次にどうなるか?)

音韻認知: 語頭音→対応する絵の選択

かな読み・書き: 単語(+絵)を組み合わせたの、2語文作成・読解
例) 経験したことについて、写真をみて2語文作成

～くんが、～してる

買い物での、必要なものの書き出し・読んで対応するものを入れる